主体的な学び手が育つ授業を目指して

——古典教材「竹取物語」の音読を通して——

目　　次

Ⅰ　テーマ設定の理由……109
Ⅱ　研究仮説……110
Ⅲ　研究内容……110
　1　学習過程の工夫……110
　　(1)　導入の工夫……110
　　(2)　授業の中でなにを学ぶか……110
　　(3)　音読……111
　　(4)　指導形態と学習形態……113
　　(5)　評価……114
　2　古典教材をどう捉えるか……115
　　(1)　学習指導要領における古典……115
　　(2)　古典の学習事項……115
　　(3)　中学生と古典……116
　　(4)　古典で与える知識・技能……116
　　(5)　古典教材一覧……117
Ⅳ　授業実践……118
　1　単元名……118
　2　単元の目標……118
　3　教材観……118
　4　題材目標……119
　5　評価……119
　6　全体指導計画……120
　7　本時の学習展開……121
　　(1)　目標……121
　　(2)　展開……121
　　(3)　評価……122
　8　実践を終えて……123
Ⅴ　まとめと今後の課題……124
　　参考文献……125
　　生徒のワークシート……126

浦添市立浦添中学校教諭

福　地　公　代

主体的な学び手が育つ授業を目指して

――古典教材「竹取物語」の音読を通して――

浦添市立浦添中学校教諭　福　地　公　代

Ⅰ　テーマ設定の理由

平成元年３月15日に中学校学習指導要領の改訂が行われ，平成５年度から実施することになっている。今回の改訂は，社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成を目指している。

国語科においては，言語の教育としての立場を一層重視し，国語に対する関心を高め，国語を尊重する態度を育てるようにする観点から，音声言語と文字言語にかかわる内容について発達段階に応じた基礎的・基本的な事項を取り上げて構成するなどの改善を図り，その一層の充実を期している。

つまり，情報化社会といわれる社会の変化に対応するため，目的や意図に応じて適切に表現する力や相手の立場や考えを的確に理解する力をつけることが重視されているのだと思う。その能力を高めるために「自ら学ぶ意欲のある生徒」の育成が教育に求められているのではないだろうか。

また，本校の教育目標は「心身ともに健康な生徒」「自らよく考えて学ぶ生徒」「明るく思いやりのある生徒」「すすんで働き，粘り強くがんばる生徒」となっている。「自らよく考えて学ぶ生徒」に焦点をあてて国語科教育の面から研究してみたい。

ところが，日頃の教育活動を振りかえってみると，問題が山積している。実態をあげてみると，

- ○　聞かれたことは，答えるが，生徒からの発問はほとんどない。
- ○　発言する場面があっても，発言できない。
- ○　指示されたことはやるが，それ以上はやらない。

静かで落ち着いた学習の場ではあるが，生き生きと活動しているとはいいがたい。

このことは，教師主体の授業展開であるための弊害だと思われる。そこから脱却する方法として

- ○　生徒自らが課題を発見し，課題解決に取り組むような手だてを工夫する。
- ○　自分の考えを自信を持って発言できるような手だてを工夫する。

以上のことを踏まえて，古典学習の中で音読を重視した授業をやってみようと考えた。古文を取り上げる理由として

- ○　入門期ということもあり，出発点が同じである。
- ○　読めることが成就感につながりやすいのでは。
- ○　どこでどうつまずいているかがわかりやすく個別指導がしやすい。
- ○　古文の持つ独特のリズムや美しい響きなども，生徒が興味・関心を持ってくれるだろう。

以上のような理由から音読を重視した授業の工夫をしたいと考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究仮説

○　古文の学習過程において，生徒自らが課題を発見し，問題解決するための過程を組織することによって，主体的な学び手が育つであろう。 ○　音読指導を通して，確実に読めるようになり，古文の持つ独特のリズムや深い味わいなどに生徒が興味・関心を持ち，その結果，主体的に学習に取り組むであろう。

Ⅲ　研究内容

主体的な学び手が育つ授業を目指して研究に取り組むわけだが，そのためには，いくつかの条件があると思う。まず，学習意欲を支えるものとして，五つの項目が挙げられる。

【主体性】「自分はこう思う」「自分の考えはこうだ」と言う自分の主張を持つ主体性

【集中力】学習の中でぶつかる多くの困難に対して，自力で解決しようとする集中力

【持続力】学習の困難さを乗り越え，さらに学習を続けていこうとする持続力

【向上心】「自分の力でやってみよう」「もっとよい方法がないだろうか」と思っ向上心

【自　信】「やればできる」｜自分の力でやり遂げられる」という自信。

「個を生かす教育の実践　上」全国教育研究所連盟

つまり，生徒が，主体的に学習活動を展開していく過程の中で，ひとりひとりの存在価値，ひとりひとりの個性が尊重され，それを生徒自身が自覚した時，学習意欲は高まっていくのではないだろうか。

1　学習過程の工夫

(1)　導入の工夫

これから取り組む授業への興味・関心を引き起こすことは，そのことにより知的好奇心を刺激し，学習意欲を高めていくものと考えられる。

生徒が教材のどの部分に興味をもち，どの方向に興味を発展させていくのかを十分探り，予想して効果的な導入を図りたい。

①親近感，②新鮮性，③予盾性，④価値性，⑤必要性，⑥楽しさ，などが興味をおこさせる条件としてあげられる。

たとえば，読みもの資料，視聴覚教材（録音テープ，ビデオテープなど）を利用したり，教科書にのみとらわれる事なく，広く，生徒が実際体験していることを具体例として提供することも効果があがると思う。

(2)　授業の中で何を学ぶかがわかる。

興味・関心を大切にしながら，学習課題を設定し，それを追求し，解決していく。

学習課題の定義

教材の価値と生徒のものの見方，考え方，感じ方をしっかりと結びつける働きをするものである。そしてそれは，

①　学習課題は学習や指導の目標とほぼ同じ（表と裏）

② 学習課題は学び方・学習方法と同じで，教材によって異なることはなくいつも同じものである。

③ 自分が深く考えてみようとする切実な問題，自分が自分に課した問題，問題をもとに解明すべき対象を明確に定めたものである。

以上のような三つの考え方がある。私としては，一番目の立場をとってすすめていきたい。

学習課題を生み出すまでの方法

① 生徒の反応を予想して，教師が作る。

② 教師と生徒が共同でつくる。

③ 教師の指導のもとに生徒自身がつくる。

たくさんの研究者や先達の教師が実践してきた報告をみても目指すのは③だが，①，②も教材やねらいとするもの，生徒の状況に応じて適する方法を自由に選んだ方がいいとされている。

理想としては，生徒たち自身が中心課題になりうる学習課題を発見し，追求していくことが重要である。実際の授業の中では，それのみにこだわっていくとかえって学習課題というものはむつかしい，時間がかかって大変だと思わせてしまうのではないか。それならば学習課題づくりは教材ごとに方法を変えてもいいのではないだろうか。

学習課題を中心とする授業

① 生徒たちの疑問や感想を大切にするので学習意欲を促すことができるだろう。

② 自分で解決しようとするので，学習方法を身につけることができるだろう。

③ 生徒たちの問題意識を育て，学習課題を発見する能力を育てることができるだろう。

授業に取り組む意欲と課題意識をしっかりもたせ，学習していることがらがどんな意味や価値を持つか，あるいは学習の流れの中でどんな位置にあるかが意識され，どんな方法でその課題に取り組めばよいかがわかる。

生徒の側からだけでもこのように利点が挙げられる。教師の側からもなにをねらって授業を組むかということが明らかになるし，授業の流れもつかみやすくなると思う。

よって，生徒をより主体的に授業に取りくませるために学習課題を授業の中に積極的に取り上げていきたい。

(3) 音読

音読の効果

① 声を出して音読したり，読み方の工夫をするので学習が楽しくなる。

② 教科書の文章を音声化することにより，正しく美しい日本語が自然に身につく。

③ 音読の速さは，黙読の速さにもつながる。

④ 音読指導が定着したら，子どもたちは話し言葉や書き言葉にも気をつけるようになる。

⑤ 子どもたちに集中力がつき，学習意欲はもちろん生活意欲もでてくる。

⑥ 教材を音声化することにより，イメージもふくらみ，一問一答式の国語学習よりはるかに内容理解が容易になる。

「授業を変える音読のすすめ」八戸音読研究の会
左館秀之助編書

音読から朗読へ

最初から音読することを頭に入れて読み始めると，理解・表現の領域を区別せず，読み方を決めるために文章を検討していく。

自分がどう音声化するかが問題であるから，文の内容も自分の問題になると思う。

だから，積極的にならざるを得ない。どこにポイントを置くか，セリフと地の文は，どう読むか，強弱はどうつけるか，アクセントは，と文の分析を積極的に行うだろう。そこには，内容の読み取りも必然的に必要になってくる。わからない語句を調べる姿も出てくるだろう。

そして，充分に練習をし，発表したいと思える頃発表の場をもうける。表現活動において発表の場の重要性はいまさら言うまでもないが，表現活動は発表させることにより，自己評価をし，他の人の発表を聞き，聞く活動もできる。そしてさらに，改善するヒントにもなる。なにより，『やった』という成就感を持てる。それがより生徒を主体的な学習へと導いていくのではないだろうか。

音声言語の学習においては，発音，アクセント，イントネーション，速度，音量，言葉の調子，間のとりかた，言葉の使い方などの技術指導ももちろん大切であろうが，なにより，『やればできる』と思い，『やってみよう』と意欲を持って，伸び伸びと活動させることを目標に取り組む方がいい効果をあげられると思う。

指導の実際

机間巡視をしていてここだと思うところで個別に学習の進め方を指導していくのだが，生徒の出すサインを注意深く読み取る事が必要になる。

① 姿勢が悪い。 ⟶どういう姿勢をとればいいのかわからない。
② 句読点を意識していない ⟶区切り方がおかしい。つまずいている。
③ 間違った読みをしている ⟶自分でこうだと思い込みをしている。
④ 読めない字がある ⟶読めない字はどうすればいいのかわからない。
⑤ 間違いはないが棒読み ⟶内容を読み取っていない。
⑥ 発音が曖昧 ⟶口がほぐれていない。

①にたいしては，座ったままで足を軽く開いて，背筋を伸ばす。本はかならず両手で持つ。というアドバイスをする。

②にたいしては，原則として句読点は区切って読むことを指示して，意味のつながりを考えたり，呼吸のしやすいところで切ることを指導する。ある本によると5，7のリズム，12音で区切ると呼吸も楽に，聞いている人にも心地快く響くということが書かれていて興味深かった。

③にたいしては，よく読むことを指導する。えてしてこの間違いをする生徒は文章をよく見ていない。そして自分ではなかなかその間違いに気づかない。読み間違いを指摘してあげて，その時は読むところを指でなぞりながら読み進めていく指導をする。

④にたいしては，文字の調べ方を指導していく。辞典の携帯の勧めにもなる。

⑤にたいしては，一語一語はっきり読むことを指導していく。文節に区切って読むことや，情景を思い浮かべながら読むことを指導する。

⑥にたいしては，意識的に早口言葉や母音の口形をさせてみる。

生徒が，音読をしている間に机間巡視をしながら，ひとりひとりの読みに気を配り，音読がスムーズにいくよう指導していく。グループでリレー読みをしている時は，内容の読み取りに示唆を与えると読み方に幅がでてグループ内での話し合いが活性化し，深まりがでてくるのではないだろうか。

(4) 指導形態と学習形態

指導形態とは，所期の指導目標を達成するために，最も効果をあげることができるよう授業過程にそくして採る方法の一種である。学習者の学習活動からみれば，学習形態であり，学習と指導とを，総括して授業形態ともいう。

主体的な学び手を育てる授業というと個を大切に学習活動をしなければならないと考える。そこでどういう授業形態がもっとも適しているか，個別指導（個人学習），グループ指導（グループ学習），一斉指導（一斉学習）の各々の特質と問題点を調べ，どうすれば，生徒がより主体的に授業に関わるかを考えていきたい。

＜指導形態＞

○ 個別指導……個に応じた指導。それぞれの個人が自分ひとりで学習し，ひとりひとりが能力や個性を活かせるよう指導すること。学習の個別化には二つの考え方がある。一つめは生徒の個人差は絶対的なものとして，それぞれの能力，適性等に応じて学習内容・方法を細分化することで最大限の学習効果を得ようとする。二つめは，生徒の個人差はマイナスではなくより優れた成果を得るために有効に作用するものであるとする考えである。たとえばわかったものとわからないものとの対立・矛盾が集団思考を通して止揚され，わからなかったものがわかるようになり，わかっていたものの理解認識もいっそう深化されるとされる考え方である。問題点としては，あまりにも多用化して充分な指導時間がとれないということが考えられる。

○ グループ指導……班・小集団・分団に分けて学習をすすめる。「一斉授業の欠陥」を克服する方法として提唱され，工夫された。学級全体の生徒を同時に指導する場合に比べて学習能率があがる。効果が期待できるものは，①実験や実習などの作業をともなう学習，②共同制作などの分担学習を必要とする学習，③意見交換や討論を活発化させる必要に基づく学習。一斉学習においての個人への指示が，学習集団への指示になる。教師→集団→生徒という関係に置き変わっていく。

問題点としては，全員の発言・参加が保障されるとあっても，取り組む意欲と方法がなければ，リーダーシップをとる子にのみ，責任が集中し，やる子とやらない子がでてきて不満がでてくることである。

○ 一斉指導……一人の教師が一定の生徒集団と対面し，その集団全員にたいして同時に同じ内容を指導する。学級のどの生徒にもひとしく高いレヘルの内容が与えられ，すぐれた発達を可能にする統一的な教育をなす。問題点としては，どの生徒も一括して一律に扱う画一的指導だとみなされることである。詰め込み学習・落ちこぼれの要因ともいわれている。

＜学習形態＞　学習活動における組織的・方法的側面をさして学習形態という。

○ 個別学習……学習活動が本来は個人において成立することからすれば，あえてあげる必

要もないが，学習活動を個別の生徒に保障するという意味で考えるなら，調べ学習をしたり，問題解決に取り組んだりする，一人でする学習の活動場面があげられるだろう。

○　グループ学習……学級が小グループに分けられ，学習活動が，グループ成員の相互連帯・相互責任のもとで，共同して進められる。生徒は自分の学習を進めながら，仲間に働きかけ援助活動もする。そのなかから，自主・共同の学習規律も育っていくものと思われる。教授法上は，問答や論争，自主的問題解決の場合に多く用いられる。

問題点としては，グループでの活動に見通しを与える指導を欠くと，外面的な活発さにとどまることが多い。

○　一斉学習……授業での学習活動の基本形態と考えられる。学級の子供が教師により一括して指導される。教授法上は，教師の講義や説明を聞く場合や教師と子供相互に問答・論争する場合がある。

主体的に学ぶ生徒ということで，考えると個を活かした授業の工夫とは，一つに絞って考えられるものではない。一人一人に学習を成立させる最適な方法があって，その形態をとれば，解決できるものではないからである。授業形態の側面からいえば，一人一人の生徒に主体的な学習を成立させるということは，一斉学習でもグループ学習でもどこでも意図されなければならない。さらにつけくわえれば，一斉，グループ，個別の三つの形態を授業展開の中で適切に交互転換することによって表現されることなのである。一斉指導＝共通指導と押さえて，画一的指導方法にならないように考慮する。個人差を考慮した授業形態を意識して授業を構築すれば，一斉，グループ，個別いずれにおいても個性を尊重した，目指す生徒像の実現ができるのではないだろうか。

個別学習における学習の内面化，グループ学習における１＋１＝３にも４にもなりうる可能性，一斉学習における質の高い学習そのどれもが生徒の主体的学習への取り組みの可能性を示唆している。

学習の目標やそこでなにをねらうかによって，同一教材でも授業形態を変える工夫が望ましい。生徒の事前のアンケートの集計結果の中にもやっていて楽しいのはグループ学習だが，（33人中23人），しかし，授業内容を理解しやすい状態はという問いには，半数以上（33人中19人）の生徒が先生がまとめてくれる一斉を選んでいる。苦労してグループでまとめたり，個人で考えてまとめていくより，教師が効率よくまとめていく方がいいと答える傾向にあることはいなめない。しかし，やりがいや楽しさ，力になるのは，グループ学習であり，個人学習であると考えているようでもある。教師が，グループ学習の進め方，個人学習の進め方に適切なアドバイスをしていけば，生徒のやりがいと理解を結びつけてより主体的に関わる授業になるのではないだろうか。

(5)　評価

教授・学習活動のすべての過程で，学習者の状況，経験を知り，学習目標の設定や指導方法の工夫，教育条件の改善などに役立てるための資料を得るための活動。

評価を取り入れる利点としては，ここが，弱いと自分でわかって，さらに学習に改善が加えられる。自分で学習の進み具合いがチェックできる点であるといえるだろう。

そして，なにより学習者が自分の学習を振り返って，次の学習でどうすべきか意欲につなげることが大切である。

学習の導入時には，それまでの経験や知識を知る機会としての評価。ここでは，質問紙法（あらかじめ用意した質問に文字を使って答える）や，面接法（人と人が直接向いあって言語によって意志疎通をはかり評価する）などが有効であろう。

学習の途中においては，生徒たちの言動を観察していて，なにがつまずきの原因か，どう進めればいいのかなど，次の学習へつながるような評価法が望ましい。チェックリスト法（観察による評価法），形成評価法（授業中に行う能力形成，態度形成のための評価）がふさわしいのではないだろうか。

教師はつねに，自分の指導を反省する姿勢を持つことも必要である。評価において，教師と学習者，学習者相互のフィードバックにより効果をあげると思われる。

かつて自分も学習者であったことを思い出して，学習者を理解し，励まし，さらにアドバイスをし，認めてあげることも評価の大切な側面である。

最後に授業のまとめとして，生徒の達成度や満足度を確認することも重要であろう。ここでは，客観テスト法，ノートやワークの活用，作文などによる観察が効果的であろう。

評価と言うと，生徒個人のものという意味にとりがちであるが，個人の評価だけにとどまらず，評価を通して，教師の指導の適切性，学級の集団としての関わりも見えていくことが望ましい。最終的には，生徒が自分はどのような力が不足し，どのような勉強をすればよいのかというところまでもっていくと，さらに，次元の高い学習へとつながっていくだろう。そこに主体的に自ら学ぶ姿が育っていくのではないだろうか。

2　古典教材をどう捉えるか

(1)　学習指導要領における古典

「古典の指導については，古典としての古文や漢文を理解する基礎を養い古典に親しむ態度を育てるとともに，我が国の文化や伝統について関心を深めるようにすること。（中略）なお，指導にあたっては，音読などを通して文章の内容や優れた表現を味わうことができるようにする。」

以上のことが，今回の学習指導要領改訂でしめされている。また，音読，朗読，暗唱などの音声化による学習活動を重視した指導は，古典指導の基本的事項として実効をあげうるものであることは多くの実践により立証されている。古典を理解する基礎を養うためには，作品の文体や，調子，表現などに慣れさせることが大切である。古典教材の原文に直接ふれ，日本語の豊かさ，美しさを理解させたい。古典教材の原文の意味や表現，リズム，響きなどに配慮して指導を行いたい。

(2)　古典の学習事項

中学校の古典学習は，原文（中国古典は書き下し文）を，その意味・リズム・響きなどに，従って滑らかに朗読する力，及びその習慣の育成を第一に，そして古典の世界に興味・関心を抱く態度の育成を第二に重んじたい。古典の学習は，人類普遍の課題や日本人の意識構造など

の問題を考える糸口にもなるし，史実・有職故実などへの興味は現代社会への問題意識にもつながるからである。そして，第三に，古典における言語事項を理解しようとする態度の育成が挙げられ，第四に文学史に対する興味づけが挙げられる。

これらをまとめてみると，

① 我が国の文化や伝統について関心を深める。

② 古典としての古文や漢文を理解する基礎を養う。

③ 古典に親しむ態度を育てる。

音読などを通して，文章の内容や優れた表現を味わうことができるようにする。（音読したり，朗読・群読したり，暗唱したりすることなどを通して，文章表現や表現内容を味わせるようにするということ。）

(3) 中学生と古典

① 中学生にとって古典を学習する意義・効果とは，

①自己の生き方を考えるうえでの資料とする。②広く人間愛・人類愛の問題を考える手がかりとする。③古代の人々の生き方・考え方を知る。④古い日本語について学ぶ。⑤過去の言語作品についての知識をもつ。

② 中学生に古典単元は何をどこまで学ばせようとしているのか。

①古典とはどういうものかを学ぶ。②古代の人々の生き方・考え方を知る。③日本の言語文化（文学）の歴史を主要な作品・作者に関連して学ぶ。④現代語を支える言語文化の歴史について学ぶ。　「学習指導書」総説編

(4) 古典で与える知識・技能

ア　言語事項	イ　文学史的事項	ウ　ものの見方・思想
○語彙・語句 （取り立て指導により） ○文法 （音読・通釈を通して） ○音韻 （音読・視写を通して） ○文字・かなづかい （視写を通して） ○文体 （音読・暗唱を通して）	○作品 ○作者 } 各教材末の解説を通して，また，教科書巻末の文学史表を参考にして ○ジャンル ○思潮 ○文章の種類 } 扱う教材を通して	○自然観 ○人事 ○集団 ○説話内容 ○情緒 } 扱う教材を通して

これだけの指導を（12～14）年間時数×３年＝36～42時間内でこなさないといけない。

三年間を通したねらいを定めて古典学習に取り組ませる必要がある。教師間の連携が求められるだろう。

(5) 古典教材一覧

文章＼学年			一年	二年	三年
解説			空のうた		
古文／日本の古典	散文	随筆		神無月のころ	春はあけぼの
				徒然草	枕草子
		物語	蓬莱の玉の枝	扇の的	
			竹取物語	平家物語	
		紀行			夏草
					おくのほそ道
		和歌			さわらび
					新古今和歌集
漢文（中国古典）			故事から生まれた言葉	漢詩の風景	学びて時にこれを習う
			唐詩紀事韓非子下	唐詩選	論語

「学習指導書下」

Ⅳ　授業実践

1　単元名　　古典との出会い　　蓬莱の玉の枝（「竹取物語」）から

2　単元の目標

(1)　初めて学ぶ古典の世界それが，「古典との出会い」である。

(2)　人間形成の中核としての古典を学ばせたい。

(3)　古典は現代を照射する。つまり，読み手自身の心や生き方を振り返らせる。

(4)　言語事項は古典へ分け入る手段である。（学習の目的ではない。）

(5)　古典は主体的な働きかけによって価値を高める。一語一語を大切に扱い，その作品の時代，社会に還元して意味をつかむことである。

3　教材観

「源氏物語」の紫式部をして「物語の祖」と言わしめた「竹取物語」は，現存する日本最古の仮名で書かれた物語である。その中から古典の入門期にふさわしい教材として『蓬莱の玉の枝』が取り上げられている。「竹取物語」を部分的にではあるが，原文で読めるようになっている。

また現代語訳もあるので物語の粗筋もとらえることができる。小さい頃読んだ「かぐや姫」の原本としても親しみをもてるであろう。

冒頭の部分は，竹取の翁がかぐや姫を発見する場面を取り上げ，次にくらもちの皇子が蓬莱の玉の枝をさがしにいく話を五人の貴公子の求婚話の中から取り上げている。この部分は「かぐや姫」の話の中より詳しくなっている。

「蓬莱の玉の枝」は竹取の翁とかぐや姫とくらもちの皇子の三者で構成される物語とくらもちの皇子が語る冒険談の内容にわかれている。かぐや姫はなぜ五人の貴公子の求婚を拒んだのか？封建社会においては貴公子たちの身分の高さや富は結婚の相手としては有利に働いたのではないだろうか？しかし，かぐや姫は求婚者の真実の心，誠実さをみようとしている。

それが五つの難題に現れているように思える。くらもちの皇子はその権力と富の力，冗舌をもってかぐや姫の難題を解決しようとした。そこには真心，かぐや姫の望んでいた結婚の条件は満たされてはいなかったのである。

最後の場面は時の最高権力者，帝とのやりとりである。宮中への招きにも応じず，中秋の名月の夜，月の都の迎えとともに天に昇っていくかぐや姫を描く。

清らかなものへの憧れ，羽衣伝説にもつながる当時の人々の世界観（海の向こうになにがあるのか，月には人間が住んでいるのか）などがうかがえる。

また，かぐや姫から帝に渡された不老不死の薬から，富士山と呼ぶようになったとの民間伝承の地名起源説も興味深く感じられる。不老不死も当時の人々には永遠の願いであったことがうかがえる。

原文を音読することによって，一方では情景をイメージとしてとらえ，他方では文章の調子や情趣なども体得させたい。そして，古代人の豊かな想像力を十分に楽しませる方向にもっていきたい。

4　題材目標

○　口語訳を参考にしながら，原文を通読し，物語の展開・内容のあらましを理解させる。

○　古文を繰り返し朗読し，古典の中に生きている人間の現代にも通ずるさまざまな姿について考えさせる。

○　古典への関心や古典への読書意欲をたかめること。

単元	教材の文種	中心目標	主な学習事項（◎は特に重要な学習）					
			内容主題	見方・考え方（感じ方）	情景心情（感じ方）	構想組み立て	語句や表現の工夫・特徴	朗読
6	古典物語	昔の文章に読み慣れる		○	○		◎	◎

5　評価

評価の観点

(1)　古典に慣れ，古典に関心をもったか。

(2)　古典の物語を読んで，人物の心情や情景を味わうことができたか。

(3)　古典の中に現代にも生きている面があることや，現代とは違った面のあることを知り，感想を持つことができたか。

(4)　音読や朗読を通して，古文や漢文の調子に慣れたか。

(5)　文語文を味わうことができたか。

(6)　古典を通じて古人の生き方や考え方に触れ，現代に生きる自分への考え方を深めることができたか。

＜学習前の評価＞

①　「かぐや姫」について知っていることを聞く。

②　ワークブックの点検によって古典への興味・関心を調べる。

＜学習中の評価＞

①　観察やワークシートの点検によって調べる。(1)〜(6)について

②　観察や音読評価表を使って調べる。　(4)

③　ワークシートのまとめかた，資料の活用のしかたについて観察する。

＜学習後の評価＞

①　授業後の感想などから古典の学習のしかたを調べる。

②　ペーパーテストを行う。

6　全体指導計画

1時間目：①「竹取物語」について理解する。

○教師の説明（絵本や紙芝居など身近に接した経験のありそうなものを使う）

○ビデオ観賞（「平安貴族の生活」25分）

②ビデオをみてわかったことを記入

③冒頭部分を視写する。（ワーク２，時間がない時は家庭学習）

2時間目：①教師の範読をする。

（本時）　②それぞれ音読をする。（読み方に指示をあたえない。いろいろ疑問が出るだろう。）

③上手に読むための話し合い。（でてきた疑問を課題に発展させていく。）

④各グループから出てきた課題をみんなで考えていく。

⑤内容を自分なりの解釈で捉えさせる。

⑥教科書の現代語釈と自分の訳とを比べさせる。

⑦グループ内でリレー読みをしたり，ひとり読みをしたりして，暗唱までもっていく。

3時間目：①冒頭部分を読む（全体，個人）

②原文の言葉の意味を，訳文と比べながら，理解させる。

③ワークシートに教科書の訳文を視写させる。

④暗唱テスト（教師ができた生徒から暗唱を聞き，合格不合格をつける。）

合格した生徒も基準を決めて他の生徒の暗唱を聞いて，合格不合格をつける。その時間内に出来なかった生徒は，休み時間や昼休み時間など教師をつかまえてテストをうけていいむね伝える。時間内に合格する人数が少ない場合は，次時にペーパーテストで合否を判断する。（ここでもう１時間かけて，全員暗唱させるのもよい）

4時間目：①現代文求婚話を読む。

○読み取った内容を五人の貴公子への五つの難題にわけて整理させる。（ワーク３）

②「蓬莱の玉の枝」の部分の視写（原文と訳文）

③「蓬莱の玉の枝」の部分の音読

④歴史的仮名遣いや古語について学ぶ

○内容を考える。

⑤グループ内での読みの練習（ここも時間のかかるところである。ポイントをおくならもう１時間ほしいところである。）

5時間目：①「蓬莱の玉の枝」の音読会（４人１グループでうまく聞こえるように工夫して読む。評価表で聞き取り方もチェックする。）

②内容を読み取る。

③現代語訳の部分の読み。

○「竹取物語」のかぐや姫の生き方は現代の私たちにもつながるものがあるだろうか。

＝課題（主題へとつなげていく。）

発　　展：◎印象に残った場面を絵と文章で感想を書く。（ワーク５）

または，映画「竹取物語」を見せ感想を書かせる。

7　本時の指導（２時間目）

(1)　本時の目標　音声化をさせることで，古典の文章を味わい，理解を深めさせる。

(2)　本時の展開

	学習活動	教師の活動	予想される生徒の活動	留意点
	①前時の学習の確認 本時の学習内容について	ワーク２を出させる。		ざっと見回す。
	②原文の読み （範読）	原文をゆっくり読んで聞かせる。	じっと聞いている。	
	③本時の学習課題の確認	冒頭部分の原文を読み味わう		
	④原文の読み （音読）	各々読んでみるよう指示するが読み方については指示しない。	各々読んでみようとする。つまったり，よめなかったりする。	机間巡視しながら，個別，グループごとに指導する。
	⑤原文の読みをスムーズにおこなうよう話し合いをさせる。	グループで読み方について話し合うよう指示する。	個人で疑問に思っている点，問題点を話し合わせる。 （予想される問題） ○読めない字はどうする。 ○左側の小さい字はなんだろう。 ○くぎるのはどこでやればいいのか。 ○言葉の意味がわからない。	なるべくたくさん出させる。
		どうすればいいか考えさせ，解決させる。	わかる生徒は発言する。 自分の疑問の解決は，ワーク２に書き込ませる。	発言がでない時は，誘いかける。
	⑥音読をする。	もう一度読んで，後から，つづけて読ませてみる。	聞きながら繰り返す。	ひとりひとりのよみを大事にする。

		教師の活動	予想される生徒の活動	留意点
	⑦内容を考えさせる。	自分なりの解釈をさせる。それから教科書の訳と比べる。	ワーク2に書きこませる。（教科書の訳は比べるだけ）	正確さにはこだわらない。
	⑧暗唱にむけて音読をさせる。	冒頭部分で比較的読みやすく，簡潔なので何度も練習させ，暗唱させる。 ○一文づつ読む。（交互） ○グループ内で読んでみる。 ○教科書をふせて読む。	読めそうだと思い，取り組み始める。 ○早い生徒はこの時間内に暗唱できるだろう。	抵抗感をのぞくよう配慮する。
	⑨本時のまとめ	○内容を自分なりに捉えられたか。 ○古文の文体をよく味わえたか。		次時に，暗唱テストの時間をとるか，ペーパーテストで合否を判断する。（全員合格をめざす）
	⑩次時の予告	冒頭部分の現代語釈を自分なりの解釈をもとに学習することを伝える。		

(3) 評価

① 原文をスラスラ読めるようになったか。

② 内容を捉えることができたか。

③ 古典に親しむ態度が養えたか。

8 実践を終えて

(1) 授業者の反省

① 生徒の反応をみながら，指導案の流れを一部をかえざるをえなかった。（時間的にも余裕がなかった。

② 生徒なりの内容の読み取りは，予想していたよりいい読み取りで，楽しんでやっていたと思う。

③　効果的な音読のためには，年間を通した段階的な指導が必要なのを痛切に感じた。

④　学習課題のたて方は，練り方，解決にもっていく方法ともに，工夫していきたい。

(2)　感想・意見

①　導入から展開へ移る部分に時間がかかりすぎて，後半の盛り上がった活動の時間が短くなったように思う。

②　音読に入る前に早口言葉とか，練習する場を設けたら，早目に声がドンドンでたのではないか。

③　教師の語りかけが，効果的で，平安時代にタイムスリップさせて雰囲気をつくって学習に取り組ませたのはよかった。

(3)　指導助言（奥平・諸見里）

①　原文を読むことで，生徒が自ら内容を捉えていく過程は，主体的に学ぶというねらいからは，効果的であった。

②　音読の中で言葉をしっかり捉えながら読むのはいいが，範読後，代表で１，２名の生徒に読ませてもよかったのでは。

③　古典と現代語の違いは，音声にして初めてわかる。声を出して聞くことによって古典を読み味わうということは，大切なことである。

④　音読の方法で，微読，黙読，唇読，範読，斉読，リレー読み，役割読み，一文読みなど，その時，その場に応じた読みを使い分けるようにするといい。

⑤　視覚に訴える意味でも，今，何をやっているのかという確認の意味でも，ＯＨＰを利用して，原文，訳文を提示して全体で読んでもよかったのではないか。（教育機器の積極的活用を）

V まとめと今後の課題

研究のまとめ

○ 聞かれたことは，答えるが，生徒からの発問はほとんどない。
○ 発言する場面があっても，発言できない。
○ 指示されたことはやるが，それ以上はやらない。

以上の授業上の悩みを抱えて，なんとかして，生き生きと生徒が主体的に活動する授業をしてみたいと考えスタートした研究所生活だった。

授業に生徒を主体的に関わらせるための工夫として，学習課題の設定。古文を身近なものとして感じ取らせるための導入の工夫。自分なりの内容の読み取りをねらった音読。古文をそらんじて独特の言い回し，リズム，美しい響きを摑めるようにとの暗唱と授業の中で盛りだくさんのねらいを持って臨んだ。

いままで，教師が質問し，教師が説明し，指示を与え，まとめていくという授業形態に慣れていた生徒達は，初めの頃とまどいと不安を覚えていたようである。授業実践を重ねるごとに徐々に，自分達一人一人，グループの活動に授業の進行が任せられているという自覚を持ってきた。

しかし，最後までとまどいながら，なにをするのかわからないまま授業を終えた生徒もいたことも事実である。

ここで成果と課題をまとめてみた。

成果

(1) 授業に学習課題を取り入れることにより，今日の授業のねらいがどの生徒にもつかめたこと。

(2) 音読を取り入れることによって，授業に参加している，また自分なりの読み取りが，必要とされているという明確な意識をもたせられたこと。

(3) 多様な学習形態をとることにより，個人的にも学級全体としても生き生きと学習活動ができていた。

今後の課題

(1) 学習課題を生徒とともにつくり，解決していく学習の研究を続けていきたい。

(2) 授業形態の中で，グループ活動の方法について実践を通した研究をしていきたい。

(3) 音読を取り入れた授業をより効果的に進めるためにも年間を通した朗読指導計画を考えていきたい。

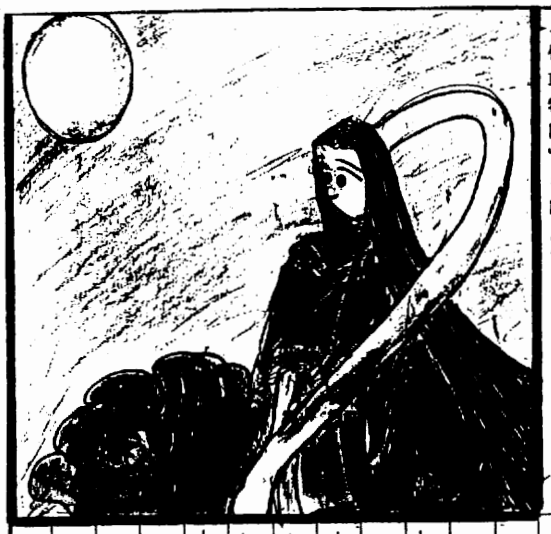
終わりに

じっくり文献を読んだり，やってみたい授業実践のできる研修期間を与えてくださった教育委員会及び教育研究所の諸先生方に感謝申し上げます。教科指導員の奥平礼子先生にも深く感謝いたします。また，研究所の事務の皆様，浦添中学校の先生方，研究員の先生方の温かい思いやりと励ましに心より感謝申し上げます。心にゆとりを持って過ごすことの大切さを実感した四ケ月でもありました。

主な参考文献

○「中学校新教育課程の解説　国語」	北川茂治編著	第一法規
○「授業を変える音読のすすめ」	八戸音読研究の会 左館秀之助編著	明治図書
○「中学国語科学習課題の構成法」	安藤修平著	明治図書
○「古典の指導」	飛田多喜雄・小林一仁編	明治図書
○「国語Ⅰ」「学習指導書Ⅰ」	光村図書出版株式会社	
○「国語教育指導用語辞典」	田近殉一・井上尚美編	教育出版
○「個を生かす教育の実践 上」	全国教育研究所連盟著	ぎょうせい

「竹取物語」を読んで ワーク5



「竹取物語」を読んで

〈感想〉 2組 17番 氏名 奥川三花子

かぐや姫と結婚したいために、五人の貴公子たちが、命や、大金をかけたのは、それだけ、どんなにかぐや姫が美しいかがわかるような気がしました。

かぐやひめは表面的にはあんまりだすなかったみたいだけど、結こんを、しんけんに考えていたんだということがわかった。

子どものいなかった竹取のおきなは、せっかく愛せる人々をさずかったのに、また、失うのは、かわいそうだと思った。

この物語は、昔の人の理想や、あこがれが入ってきた物語だと思う。

〈感想〉 二組 八番 氏名 西原未来

この絵はかぐや姫が月に帰っていくときの悲しみとさびしさとつのる想いを表現したつもりです。

五人の貴公子はみんな素直じゃなくて、権力だけでかぐや姫を手に入れようとしました。私はどんなにまでしてみんなに好かれたかぐや姫ってとても美しかったんだろうなぁと思いました。

かぐや姫の望んでいた真実の心を持っていた帝と別れるときはとてもつらかったでしょう。月の世界でしあわせになってほしいです。

蓬莱の玉の枝 ―― 「竹取物語」ワーク1

2組 1番 名 仲里 葉月

「平安貴族の生活」のビデオを鑑賞して気づいたこと、知ったことをメモしよう。

家のつくりは、だいたいが、木でできていたし、家のまわりのかざりは、みんなこうかなものばかりだった。

平安時代の人は、けまりであそんでばかりでなく、ちゃんと政治もおこなっていた。

貴族は、四季の変化で、せいたくをしていた。貴族の食事は、味よりみかけに、気をくばっていた。

十二ひとえは、着る人もたいへんだけど、着るのを手伝う人も、たいへんだっただろう。

楽しい時は、そうながくはつづかないことが、わかった。

ワーク2

上江洲 京子

原文	自分で読み取った内容	現代語訳（　）
1 今は昔、竹取の翁といふものありけり。	今は、もう昔の事で、竹取に、翁という人がいた。	1 今ではもう昔のことだが竹取の翁とよばれる人がいたそうだ。
2 野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。	野山の中で、毎日竹をとって、いろんなのを作っていた。	2 野や山に分け入って竹を取っては、いろいろな物を作るのに使っていた。
3 名をば、さぬきのみやつことなむいひける。	名前を、さぬきのみやつこという。	3 名前を、さぬきのみやつこといった。
4 その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。	ある日、その竹の中に、光る竹が一本あった。	4（ある日のこと）その竹林の中に、根本の光る竹が一本あった。
5 あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。	あやしく思って寄って見ると、筒の中光っていた。	5 不思議に思って、近寄って見ると、筒の中が光っている。
6 三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。	それを見てみると、三寸ばかりの美しい人がいた。	6 それを見ると、背丈三寸ほどの人がまことにかわいらしい様子で座っていた。

ワーク3　現代語訳の部分（記例）　組　番　氏名

かぐや姫の難題

貴公子	出された難題	メモ
①石作りの皇子	①仏の御石の鉢	（×）
②くらもちの皇子	②蓬莱の玉の枝	（×）
③右大臣あべのみうし	③火ねずみの皮衣	（×）
④大納言大伴のみゆき	④竜の首の玉	（×）
⑤中納言いそのかみのまろたり	⑤燕の子安貝	（×）

本当にかぐや姫の望んだものとは？

誠実さ・真実の心

「竹取物語」を学んで　二組　五番　氏名　石川和彦

ぼくは、「竹取物語」を学んで、こういう勉強のやりかたもわかりやすくていいなと思いました。たとえば、グループでおしえたりおしえてもらったりして学んだり、ビデオを見て自分のそうぞうと何かちがうか、どこがどうちがうかを考えながら勉強をする、こういう方法のやり方は、ぼくが大好きな学びかたなのでわかりやすかった、おぼえやすかったです。

『竹取物語』（かぐや姫）は前までは子どもたちかたのむずかしいものと思っていましたが、今回『竹取物語』を学んで言葉の使い方やむかしの言葉で読むことによって大人までも楽しむことができることがわかりました。

もう一度このような勉強をしたいと思いました。

「竹取物語」を学んで　二組　九番　氏名　宮城千春

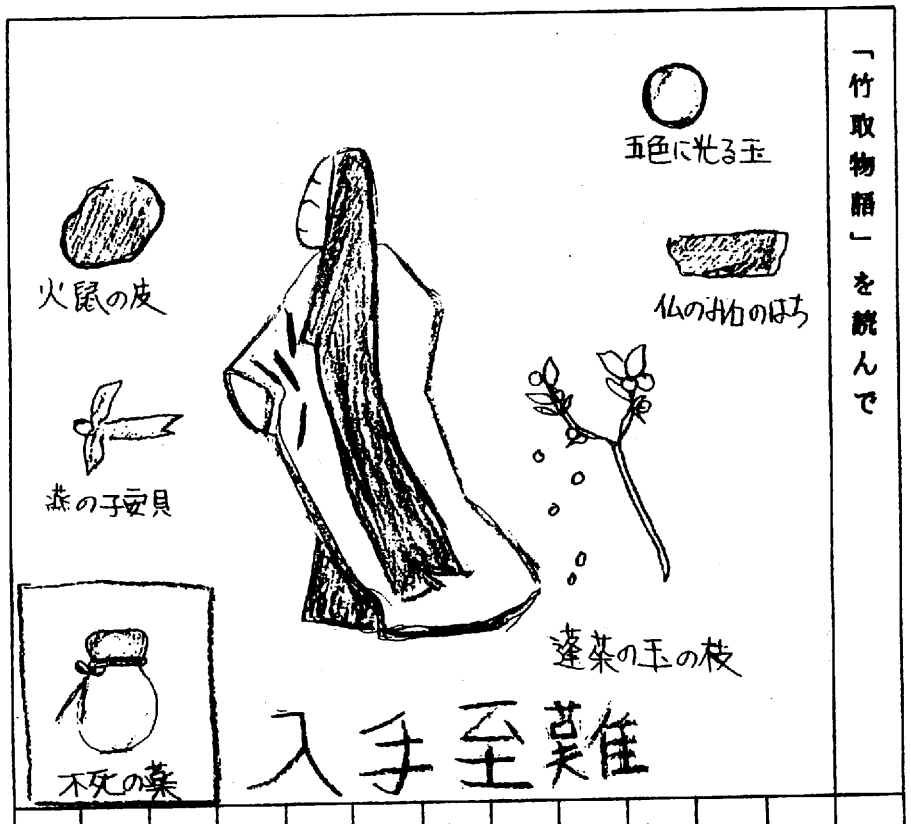
「竹取物語」を学んで私自身が深く感じたことは"愛情"です。それはこの「竹取物語」以外の古典を読んで感じたことでもあります。これはとても大きな発見でした。

今度の授業でよかったところは本読みがたくさん取り入れられていたことだと思います。その理由は同じ文章を何度もくり返しよむことによってその物語の奥深くまで読みとれることができるからです。

朗読評価表 ワーク4 組 七番 氏名 和美

	工夫されているところ・よい点	よし◎よろし○わろし△
例	読み方に強弱をつけているのがよかった。	◎
1		
2	一人一人声が大きくてよかった	◎
3	読み方にくふうされていてよかった	◎
4	ちょっと声が小さかったけど工夫されていてよかった	○
5	女子二人の声が大きくてざいごろへんもかんかんでよんだところもかんかんでよかった	◎
6	未来の読み方がとってもよかった。男子は声が大きくてよい。	○
7	ちょっと声が小さかった。でもすらすらよんでいてよかった	○
8	少しだけ声が小さかった	○
9	ちょっと声が小さかったけどよかった	○
10	本をよんでいるとき声をはりあげればよかった	◎

「竹取物語」を読んで



〈感想〉　2組　1番　氏名 仲里業月

竹取物語は、平安時代にかかれた物語なのに、時代をさきどりして、今の、時代にあっている所がたくさんあった所がビックリした。上の図は、かぐや姫に、関するものです。不死の薬は、かぐや姫がみかどにあげたもの　私はかぐや姫が本当に好きだった人はみかどごったんじゃないかなと思った竹取物語でわかったことは、身分の高い人にはうそつきで、金で問題を解決している、ずるがしこいやつがいたことがわかった

11/19 ③ A よくかけています